R7 楡木小学校　学校通信
No.6

なりたい自分になる！

In 楡木サラダボウル
令和７年５月９日
文責　余宮

ゴールデンウイークも終わり、運動会モード突入です。毎日の体調管理やお洗濯など本当にお世話になります。

粘り強さ

先日、体育館をのぞいてみると、２年生の子どもたちが汗びっしょりになってダンスを踊っていました。あっ、運動会の練習が始まったのかな？まだ練習はじめということもあり、ちょっとおぼつかないところも。でも、誰一人あきらめず、汗をぬぐうのも忘れて一心不乱に踊っている。誰一人手を抜かない。誰一人やめない。多分、そのまなざしの先には、努力を重ねやり遂げた末に咲き誇る花が見えているんだろうな。楽しげな中にも真剣さが満ち溢れ、ある意味鬼気迫る渾身のダンスを練習する２年生。「１年生のお手本になる２年生」という目標に向けて、「きまりを守って元気にあそぶ」「自分を大事に友だちにやさしく」そして「ねばり強くやりとげる」２年生に成長するんだろうと、心が熱くなりました。

２年生の子どもたちが「なりたい自分」として掲げている「粘り強さ」は、これからの社会を生き抜くために必要な能力・態度だといわれています。CM などでも言われるようになった「非認知能力」の一つですね。テストなどで数値化しやすい「認知能力」とは一線を画す、この「非認知能力」。人の性格と言い換える人もいるようです。

その性格を《外向性》《協調性》《誠実性》《情緒安定性》《開放性》の５つに分けたものが、性格特性 BIG５といわれています。（今回はすべてを詳しく述べることはできませんが、機会があったら通信等で紹介したいと思います。）

さて、２年生が目標に掲げた「粘り強さ」は、その中の一つである《誠実性》の要素に含まれ、中長期的な目標を達成するためには不可欠な、最近話題になった「やり抜く力（Grit）」にも関連しています。だから、このねばり強さは、《誠実性》の中でも中核的な側面ととらえられていることも、納得です。

ここで大きな問題が起こります。この性格特性は育ちうるものなのか、それとも生得的なものなのか。つまり、生まれた時から持っているその子なりのものなのか、それとも学習（経験）によって獲得するものなのか、という問題です。

この難問、結論は多分どちらの側面もある（生まれつきがちょっと強いか？）ということになろうと思います。が、自在にとまではいかなくても、私は学習によって自身の性格特性は変えられると信じたい。ただし、そのためにはその変化が難題であることを知り、そうありたいと強く願い、さらにはそのような習慣を自ら培う必要がありそうです。そう、２年生が掲げた大きな目標のように、常々意識し、堂々とみんなでなりたいと宣言し、粛々と仲間と助け合いながら努力を重ねるその学び合いが必要だと、私は思うのです。だから、２年生の目標の志の高さと、それに向かうみんなの力に感動してしまいます。頑張れ、２年生！